

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成24年5月14日
【事業年度】	第50期（自平成23年1月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	美樹工業株式会社
【英訳名】	MIKIKOGYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 岡田 尚一郎
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市東延末二丁目50番地
【電話番号】	079（281）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画部長 魚澤 誠治
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市東延末二丁目50番地
【電話番号】	079（281）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画部長 魚澤 誠治
【縦覧に供する場所】	美樹工業株式会社 大阪支店 （大阪市中央区淡路町四丁目4番11号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成24年3月29日に提出した第50期（自平成23年1月1日至平成23年12月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものではありません。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

1 業績等の概要

(1) 当期の概況

第5 経理の状況

2. 監査証明について

1 連結財務諸表等

(1) 連結財務諸表

注記事項

(セグメント情報等)

セグメント情報

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度（自平成23年1月1日至平成23年12月31日）

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線で示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 当期の概況

(訂正前)

(前略)

<建設事業>

建設事業セグメントに関しましては、建築土木工事及びガス関連工事において、前連結会計年度からの繰越工事が少なかった影響等により、前年同期を下回る売上となった結果、売上高は前年同期比7.8%減の7,115,524千円となりました。また、前期に土木工事において収益性の高い物件の完成があった影響により営業利益は、前年同期比34.7%減の322,730千円となりました。

<設備事業>

設備事業セグメントに関しましては、連結子会社である三樹エンジニアリング株式会社において、前連結会計年度からの繰越工事のうち収益性の高い大型工事の完成があったことから、売上高は前年同期比3.2%減の3,211,405千円、営業利益は前年同期比44.5%増の156,720千円となりました。

(後略)

(訂正後)

(前略)

<建設事業>

建設事業セグメントに関しましては、建築土木工事及びガス関連工事において、前連結会計年度からの繰越工事が少なかった影響等により、前年同期を下回る売上となった結果、売上高は前年同期比7.8%減の7,115,524千円、営業利益は前年同期比5.4%減の467,730千円となりました。

< 設備事業 >

設備事業セグメントに関しましては、連結子会社である三樹エンジニアリング株式会社において、前連結会計年度からの繰越工事のうち収益性の高い大型工事の完成があったことから、売上高は前年同期比3.2%減の3,211,405千円、営業利益は前年同期比50.2%増の162,985千円となりました。

(後略)

第5【経理の状況】

2. 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで）及び当連結会計年度（平成23年1月1日から平成23年12月31日まで）の連結財務諸表、並びに前事業年度（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで）及び当事業年度（平成23年1月1日から平成23年12月31日まで）の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで）及び当連結会計年度（平成23年1月1日から平成23年12月31日まで）の連結財務諸表、並びに前事業年度（平成22年1月1日から平成22年12月31日まで）及び当事業年度（平成23年1月1日から平成23年12月31日まで）の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

なお、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表について、仰星監査法人による監査を受け、改めて監査報告書を受領しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
当連結会計年度（自平成23年1月1日 至平成23年12月31日）

(訂正前)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	建設	設備	住宅	不動産賃貸	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	7,115,524	3,211,405	13,922,301	1,014,232	25,263,463	348,840	25,612,304	-	25,612,304
(2) セグメント間 の内部売上高又は 振替高	10,578	410,383	35,407	16,485	472,854	-	472,854	472,854	-
計	7,126,102	3,621,788	13,957,708	1,030,718	25,736,318	348,840	26,085,158	472,854	25,612,304
セグメント利益	322,730	156,720	540,252	120,595	1,140,298	15,576	1,155,874	130,392	1,286,267
セグメント資産	4,514,479	1,902,805	6,507,820	5,774,379	18,699,485	467,703	19,167,189	1,791,171	20,958,360
その他の項目 減価償却費 有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	66,117	41,303	257,124	109,787	474,333	16,054	490,387	1,417	488,969
	14,224	10,498	576,204	472,620	1,073,547	1,029,326	2,102,874	24,715	2,127,590

(注) (省略)

(訂正後)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	連結財務諸表 計上額 (注3)
	建設	設備	住宅	不動産賃貸	計				
売上高									
(1) 外部顧客への 売上高	7,115,524	3,211,405	13,922,301	1,014,232	25,263,463	348,840	25,612,304	-	25,612,304
(2) セグメント間 の内部売上高又は 振替高	<u>155,578</u>	<u>416,648</u>	35,407	16,485	<u>624,119</u>	-	<u>624,119</u>	<u>624,119</u>	-
計	<u>7,271,102</u>	<u>3,628,053</u>	13,957,708	1,030,718	<u>25,887,583</u>	348,840	<u>26,236,423</u>	<u>624,119</u>	25,612,304
セグメント利益	<u>467,730</u>	<u>162,985</u>	540,252	120,595	<u>1,291,563</u>	15,576	<u>1,307,139</u>	<u>20,872</u>	1,286,267
セグメント資産	4,514,479	1,902,805	6,507,820	5,774,379	18,699,485	467,703	19,167,189	1,791,171	20,958,360
その他の項目									
減価償却費	66,117	41,303	257,124	109,787	474,333	16,054	490,387	1,417	488,969
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	14,224	10,498	576,204	472,620	1,073,547	1,029,326	2,102,874	24,715	2,127,590

(注) (省略)

独立監査人の監査報告書

平成24年5月11日

美樹工業株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員 公認会計士 岩井 伸太郎 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 徳丸 公義 印
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている美樹工業株式会社の平成23年1月1日から平成23年12月31日までの連結会計年度の訂正報告書の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、美樹工業株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

1. 有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき連結財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の連結財務諸表について監査を行った。
2. 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。